

3/5  
3/18

## 氷見市の公共交通を学ぶ！ NPO 出前講座

上庄小学校の1～6年生の114人が地元を走るNPOバスについて学びました。

これは昨年10月に3つのNPOバスの運行を開始した「NPO法人上庄谷地域協議会」が、上庄小学校周辺の地元の足となっている「NPOバス」について知ってもらおうと特別授業を開催したものです。

授業は3部構成で行われ、市地域振興課が「氷見市の公共交通」についてを、氷見高校生が「NPOバスの役割」についてを、NPO法人上庄谷地域協議会が「氷見市のNPOバス運行の背景や現状」についてをそれぞれ説明しました。

18日には特別授業の他に、バスの乗り方講座が開かれ、児童はNPOバスと加越能バスの運賃の払い方の違いや、利用方法などを学びました。



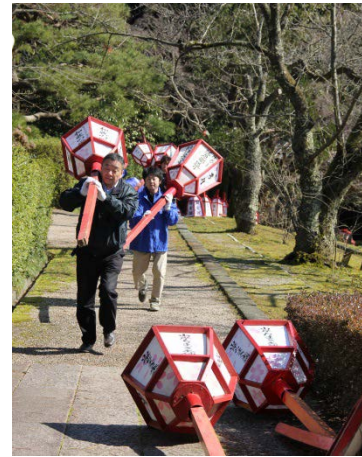
3/18

## 風情あるお花見を 朝日山公園にボンボリの飾り付け

氷見市観光協会青年部ら約15人が、お花見シーズンに向け、観桜ボンボリを飾り付けました。

桜の名所として知られる朝日山公園の散策路沿いに、高さ約2.5メートルの「立てボンボリ」65本を組み立てて設置し、小型の「吊りボンボリ」41個をつるしました。

公園内には樹齢50年から70年までのソメイヨシノが約160本あり、優しく灯すボンボリがお花見に風情を添えました。



3/20

## 自衛隊入隊者の門出を祝う 氷見市自衛隊入隊激励会

氷見市自衛隊入隊激励会が開催され、入隊者2人と氷見市自衛隊家族会、自衛官募集相談員などが出席しました。

今回入隊するのは海上自衛隊に入隊する常本 瞳さんと、航空自衛隊に入隊する嵐 星哉さん。

市長は「厳しい訓練を乗り越え、国民の期待に応える自衛官になってほしい」と励まし、入隊者を代表して常本さんが「初めての経験、環境に不安はあるが、一生懸命頑張っていきたい」と決意を述べました。

また、林市長、氷見市自衛隊家族会の井嶋会長から、健康で活躍されるようにと記念品が手渡されました。



3/23

## 春の火災に注意しましょう！

### 消防団春季消防訓練

消防団春季消防訓練が市内4地区で行われ、21分団約500人の消防関係者らが参加しました。

これは、火災が発生しやすい春の時期に消防団員の連帯と消防技術の向上を図り、万が一の火災や災害に備えることを目的としています。

ポンプ車連携放水による山火事の防ぎょ訓練や、河川氾濫を想定したシート張り訓練などの水防訓練を行いました。

その後、消防本部で消防定例表彰が行われ、長年にわたり消防団活動に精励し、市民の安全・安心に尽力した団員159人と7団体が表彰されました。



3/30

## 一足先に春を感じる

### カザハナ Kazahana 春の演奏会

市内在住の小熊 照良さん(尺八奏者)と高崎 英里さん(箏奏者)の「kazahana」による春の演奏会が朝日山公園休憩施設で開催され、尺八と箏の和楽器が奏でる音楽が、老若男女60人を魅了しました。

「SAKURA」やかぐや姫の物語の主題歌「いのちの記憶」など春らしい曲が演奏され、子どもからお年寄りまで、優しい音色を楽しみました。

当日は雨が降り、しっとりとした雰囲気の中、特別に中島みゆき作詞・作曲の「糸」も演奏され、口ずさむ人や目をつむって聴き入る人など、会場は心癒されるような雰囲気に包まれました。



3/30

## 交通安全の若い芽を育てよう！

### 交通安全ワカメ作戦

新学期を迎え、女良地区では灘浦小学校の児童や関係者らがドライバーに地域特産の「ワカメ」を配布する交通事故防止運動を行いました。

この運動は、交通安全協会女良支部(支部長 清水茂利)が昭和56年から始め、今回で38回目となります。

灘浦小学校の2、3年生15人が、元気いっぱいに「車の運転に気を付けてください」と呼びかけると、ドライバーは笑顔でうなずき、交通安全への意識を高めていました。



4/13

## 春爛漫！ 湊川で天馬船遊覧

満開の湊川の桜の下、多くの人が木造和船「天馬船」の遊覧体験を楽しみました。

定置網発祥の地として知られる氷見市の漁に欠かせない小回りのきく船として、また交通手段として利用されていた天馬船。今では見ることも少なくなった和船の魅力も多くの人に伝えるため、天馬船実行委員会が行う11年目を迎える取り組みです。

当日は晴天の中、親子連れや観光客らは、手漕ぎの天馬船から見上げるように、ゆったりと桜を眺めたり、写真を撮ったりしながら、春を満喫していました。



4/14

## 新しい時代へ 栗原のさくら祭り

栗原のさくら祭りが開催され、地元住民らが春の訪れを楽しみました。

当日は、採れたての特産たけのこや、たけのご飯を販売。春の味覚を心待ちにしていた地元住民らが朝から行列を作りました。

大きく咲き誇る県指定天然記念物「駒つなぎ桜」を前に、多くの人が写真を撮ったり、静かに桜を眺めたり、思い思いのお花見を楽しんでいました。

また、箏の演奏や、お茶のおもてなしもあり、お花見ムードを高めました。

元号「令和」で万葉集ゆかりの地が注目を集める中、大伴家持が能登への視察の際に馬を繋いだという伝説がある「駒つなぎ桜」には多くの見物客が訪れ、4月上旬から中旬ごろまで例年以上の賑わいを見せました。

